



## 新学長挨拶

新潟大学長 下條 文武  
GEJYO, Fumitake

この度、長谷川彰先生の後を引き継ぎ、新潟大学長の重責を担うことになりました。大変光栄に思うとともに、責任の重さを痛感しております。

21世紀は、新しい知識や情報、そして技術が、社会のあらゆる領域においてその活動基盤としてますます重要性を増している時代といえます。しかし、変わらぬ大学の普遍的使命は、卓越した指導的人材の育成、すなわち「教育」であり、持続的な知的生産となる活動、すなわち「研究」であり、さらに社会的存在としての使命である「社会への貢献」が基本であります。しかしながら、今の時代にあっては、その中身が、従来にも増して幅広くかつ深いものが求められています。

加えて、学術研究の高度化・学習機会の多様化と相まって、18歳人口の減少、急速なグローバル化など、私どもをとりまく環境は、かつてないスピードで変化しています。国家財政からくる運営費交付金が削減されるなかで、本学が持続的な発展を遂げていくには、大学構成員が一体となってあらゆる面で努力していくことが不可欠です。

私に与えられた使命は、新潟大学が培ってきた資産である規模と範囲を効果的に活かして、日本海側で唯一の政令指定都市・新潟市に立地する「大規模総合大学」として、

- ①環日本海地域の教育・研究の拠点大学
- ②世界トップレベルの特色ある研究の推進
- ③地域への眼差しをもった「社会に存在感のある大学」

という新潟大学の付加価値と品質を高め、結果として本学のブランド力を高めることにあると思っています。

新潟大学は、長い歴史と豊かな伝統をもちますが、2004年(平成16年)4月1日から、法人化移行に伴い国立大学法人新潟大学に生まれ変わり、教育基本目標を「精選された教育課程を通じて、豊かな教養と高い専門知識を修得して時代の課題に的確に対応し、広範に活躍する人材育成」と掲げました。そして、本学は、体系的なカリ

キュラムの提供、修学をサポートする新学務情報システム、主専攻プログラムへの転換、副専攻プログラムの充実、また、多様なニーズに対応した初修外国語カリキュラムの導入など、学生の自発的学習意欲を喚起する教育環境を提供し、学生一人一人の個性を伸ばす体制を目指しています。

本学は、日本海側唯一の政令指定都市・新潟市に立地し、五十嵐地区と旭町地区の二つのキャンパスは、ともに佐渡島が浮かぶ日本海と、信濃川が流れる越後平野に囲まれ、近くには自然保護地区に指定されている佐潟や植物の宝庫である角田山があります。このように雄大な自然環境に囲まれた両キャンパスは、学生諸君が落ち着いて勉学に打ち込むにも恵まれた環境です。

本学は、田園都市型の地域に根ざした大学として「地域共生型の環境調和」を環境保全の基本理念としております。そして、環境教育、ボランティア活動、「リユース市」開催をはじめ、キャンパスクリーンデー、環境報告書2006、2007発刊活動など、環境の保全や改善に向けたプログラムを展開中です。学生諸君には、環境問題に意識を高めて頂き、積極的な参加をお願いします。

学生諸君にとっては、今の学生時代が人生の中で最もエネルギーのあふれる大切な時期です。積極的に、クラブ活動や各種行事を通して互いの交流を深め、人生の宝となる「一生の友」を、一人でも多く作ってほしいと思います。また、諸君には、素晴らしい「我が師」となる、多くの先生や先輩との出会いがあると思います。「師は鐘のごとし、大鳴り、小鳴りはその人の撞(つ)く力に由る」です。諸君は、それぞれが「撞(つ)く強い力」を持っているはずで、多くの「我が師」から、将来の夢や希望を叶えるための、大きな手がかりを得ていただきたいと思っています。

人生の宝となる

「一生の友」を、一人でも多く作ってほしい。

そして、多くの「我が師」から将来の夢や希望を叶えるための

大きな手がかりを得てください。

新潟大学の付加価値と品質を高め、  
ブランド力を高めることが私の使命であると思っています。